

## 慢性甲状腺炎に合併した甲状腺癌の1例

森田誠一郎    檀浦龍二郎    石橋 正敏  
沖永 利親    大竹 久

### 要 旨

慢性甲状腺炎に合併した両側頸部リンパ節転移を有する甲状腺癌で、手術により確認された症例を示した。Tc-99m (以下 Tc) 甲状腺シンチで cold nodule を示した癌病変部は、Tl-201 (以下 Tl) 甲状腺シンチの early スキャンでは warm nodule を呈し、delayed スキャンでは hot nodule を示した。慢性甲状腺炎部は、early スキャンで強い集積を、delayed スキャンでもバックグラウンドよりも強い集積を示した。なお 転移リンパ節は、early スキャン、delayed スキャンともに強い集積を示した。

### はじめに

I-123 (以下 I) あるいは Tc と、Tl を併用した甲状腺シンチは、結節性病変の良性・悪性の鑑別に<sup>1)</sup>、さらに慢性甲状腺炎の診断にも用いられている<sup>2)</sup>。今回、両側リンパ節腫大を主症状としていたので悪性リンパ腫も疑われたが、手術の結果、慢性甲状腺炎に合併した両側頸部リンパ節転移を有する甲状腺癌であった1例を経験したので報告する。

### 症 例

53歳男性、昭和60年12月左側の頸部腫瘍に気付くも放置。昭和61年4月8日夜間に右頸部の疼痛を自覚し、同部の腫瘍に気付く。61年4月15日日本学第2外科受診。触診により両側頸部リンパ節の腫大、甲状腺左葉下部の腫瘍を指摘された。単純X線像にて、気管の右方への偏位、頸部軟線撮影にて粗大型石灰化像を認めた。生化学的検査では、T-3 U 28.8%, T-T-4 7.1  $\mu\text{g/dl}$ , T-T-3 124

ng/dl, TSH 3.5  $\mu\text{U/ml}$ , と正常であったが、サイロイドテスト 102,400 倍、マイクロゾームテスト 6,400 倍と高値を示した。なお既往歴、家族歴には特記すべき事項はない。

昭和61年5月16日、手術が行われた。甲状腺左葉の腫瘍部とリンパ節の術中迅速標本の病理診断の結果、follicular carcinoma, およびリンパ節転移と診断された。

摘出標本の病理診断の結果は、papillary carcinoma with component of follicular carcinoma and chronic thyroiditis and metastatic cancer in the lymph nodes であった。

### 画像診断のポイント

超音波検査、核医学検査、X線CT検査が施行された。超音波検査では、両側のリンパ節腫大と、左葉に low echo mass を指摘。X線CT検査でも、両側リンパ節腫大と、左葉の mass lesion が指摘された。

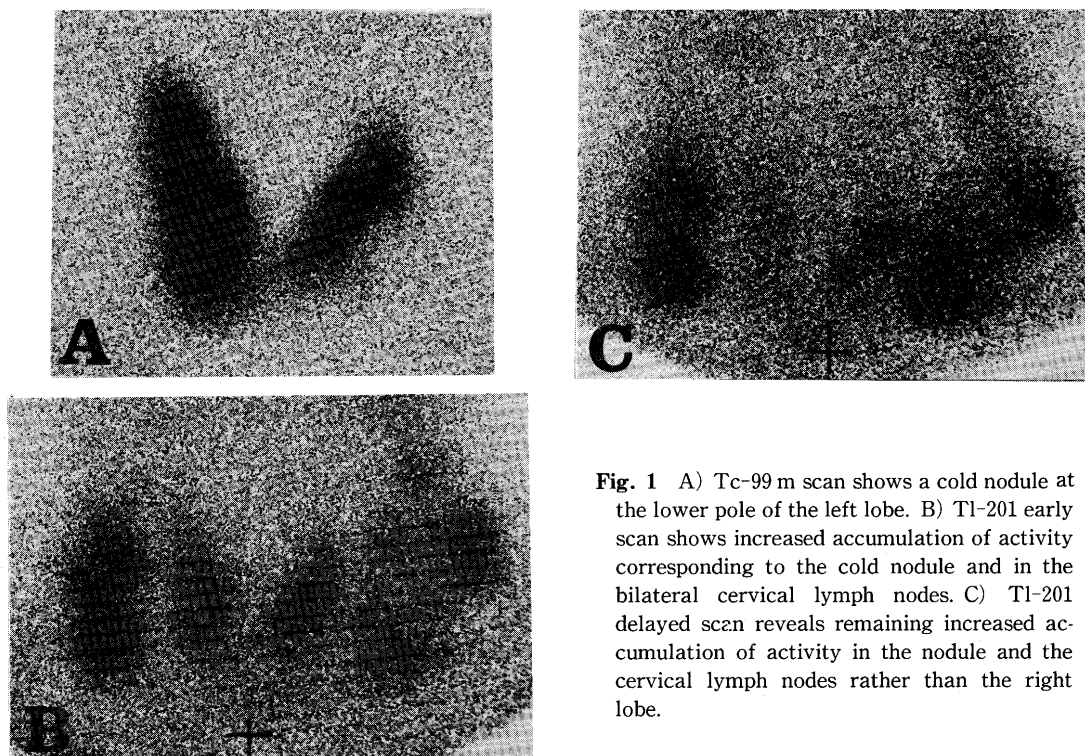
Tc シンチ (Fig. 1A) では、右葉は軽度腫大、左葉では中外側から下部ににかけて境界がやや不鮮明な欠損がみられる。Tl の early スキャン (Fig. 1B) では、両側リンパ節に強く集積し、また甲状腺も全体に集積が強く、欠損部は warm nodule を呈している。これは慢性甲状腺炎への Tl の集積が強いため生じた結果であろう。3時間後の delayed スキャン (Fig. 1C) では、欠損部は初めて hot nodule を呈している。これは慢性甲状腺炎と癌病変との Tl の wash out の違いによるものであろう。リンパ節には同様に強い集積がみられる。

A case of thyroid cancer with chronic thyroiditis

Seiichirou Morita, Ryujirou Dannoura, Masatoshi Ishibashi, Toshichika Okinaga, Hisashi Ohtake

Department of Radiology, Kurume University, School of Medicine

久留米大学医学部放射線医学教室 〒830 久留米市旭町 67



**Fig. 1** A) Tc-99 m scan shows a cold nodule at the lower pole of the left lobe. B) Tl-201 early scan shows increased accumulation of activity corresponding to the cold nodule and in the bilateral cervical lymph nodes. C) Tl-201 delayed scan reveals remaining increased accumulation of activity in the nodule and the cervical lymph nodes rather than the right lobe.

### 考 察

一般に慢性甲状腺炎では、Tc, I のシンチ所見に関係なく、early スキャン、delayed スキャンともに、Tl が瀰漫性に強く集積する。そのため、慢性甲状腺炎に合併した甲状腺癌の Tl シンチ所見は、甲状腺癌単独の場合に比べてかなり異なった所見を呈する。岡村ら<sup>2)</sup>は、慢性甲状腺炎に合併した甲状腺癌の癌病変部への Tl の集積が、early スキャンで慢性甲状腺炎部位よりも低く、delayed スキャンで同程度であったと報告している。われわれの症例の Tc, Tl シンチの所見と合せて考えると、慢性甲状腺炎に合併した甲状腺癌のシンチ像に1つのパターンが想定されそうである。しかし多田ら<sup>3)</sup>は、Tc シンチで cold nodule を呈した部位に一致して、

Tl の early スキャンで warm nodule に、delayed スキャンで hot nodule に描出された部位に、結節性病変は存在しなかった慢性甲状腺炎の1例報告している。核医学的検査だけでは診断が困難なことがあることを示している。

### 文 献

- 1) 沢 久, 福田照男, 古川 隆ほか: Tl-201 Cl による甲状腺癌鑑別の可能性—特に delayed scintigraphy による検討—. 核医学 **15**: 1223—1227, 1978.
- 2) 岡村光英, 福田照男, 沢 久ほか: 慢性甲状腺炎の Tl-201 Chloride シンチグラフィ. 核医学 **19**: 909—918, 1982.
- 3) 多田 明, 高仲 強, 立野育郎ほか: Tl-201 甲状腺スキャン delayed 像で hot nodule を呈した慢性甲状腺炎の1例. 核医学画像診断 **1**: 6—7, 1986.